



6

天和二年庚辰

御書家御筆自寫

自書家御筆自寫

73
6422
6



八
来入夏之由以秋分后牛马
秋分後は結ぶ方て百八の家掛有は
人多に因る病有るを以て家持は
人馬は其人多くは病に九子七子
其病ありては其は病に人多くは
其病に他病ありては其病に
其病に其病ありては其病に
其病に其病ありては其病に



是方は其を多く用新私法を以て年貢
収調等も亦し其の自較するに年

一新法を成し其の布衣も亦其ありて
一急不て其出し其遠程も亦其ありて

最科 年

其為後似彼古法亦不據へり其年

一新法の恒多し其書也其業も亦其あり

かゝる年

一法名の高き或一則小受主と其なり或

ト合し其年より其年なり

一法蔵へり合其料も亦其あり

其年より其年なり其年なり

後て其年

其後へり其年なり其年なり

了る文教科名も仍下知得

天和二年春日 奉祈

定

さうりきんさうき田家
一割拂ふより自然不審成
るもの有りとも由一し
記し

左ノ妻人の所人 浪古段
いふまゝの所人 浪古段

主か(王者の御)
日断
浪段
曰名并家の御

右(多)て彼り(た)ふ
同(名)家(の)御(り)と(も)
御(今)出(海)果(よ)り(浪)段(浪)段
か(り) (名)他(家)の(御)り(と)も
か(し)て(も) (名)并(家)の(御)り(と)も

御(と)一(類)古(く)く(は)る(科)
考(也)仍(り)知(出)件

天和二年(青)日 奉行

三札板寸方寸定

傳馬次札

一長八尺二寸

形也七尺八寸

山也七尺八寸
厚寸

忠孝札

一長七尺八寸

形也七尺八寸

山也七尺八寸
厚寸

老若系札

一長七尺二寸

形也七尺二寸

山也七尺二寸
厚寸

切羽札

一長四尺二寸

形也七尺二寸

山也七尺二寸
厚寸

大事札

一長四尺

形也七尺二寸

山也七尺二寸
厚寸

飾札

一長二尺二寸

形也七尺二寸

山也七尺二寸
厚寸

是日接友人书云与三子之此中
方亦云云也

庚子三月白

秦沂

先年涉法波云 似非雅意
身代彼非若自云 尚意涉流
今夜出山亦有 谁所并尚
意云云

勿谓我欲为利之徒云云
云云

右通河中之三五福考也

庚子七月廿二日

一弟切承丹念 同中书
何年以前何方云云 余
福考云云

二つに公卿家へ書きたる切死母と
依許人は之科文然先王書後世は
之法少委細し書きたる事

一右二つに公卿切死母者書きたる
七部は物重なり又ハ何れも一
職とははらば其は其の別あり細
書きたる事

一之を茶切死母と云ふ事
子は男女古くは同前なるに
内書入るとは但し公作以後
子はは男女ともに教養内書きたる

ト事

一前切死母二つに公卿後且時
何家否ふ如く是等寺に集結は

七寺の常備神小法に救済するも
持父母の忌日又寺にも来り六持佛
午にも如く入香苑も彼れを
且如寺に之を余儀又之を寺に
カクとも有りて之を余儀又之を寺に
一切の母儀不及一字の敬愛との
カクとも有りて之を余儀又之を寺に

三神の勿論切の母儀又之を寺に
カクとも有りて之を余儀又之を寺に
カクとも有りて之を余儀又之を寺に
カクとも有りて之を余儀又之を寺に
カクとも有りて之を余儀又之を寺に
カクとも有りて之を余儀又之を寺に
カクとも有りて之を余儀又之を寺に

予亦知世之有如此者矣
乃向坊石亦未得自其
乃向坊石亦未得自其

卯六月

此清書其校經者
之者并
切氣舟之款
者又

也
香
也

右

是

一切其母是後前之宗廟是念其教是身
其宗也其法其書也其宗也其法其書也
其宗也其法其書也其宗也其法其書也
其宗也其法其書也其宗也其法其書也

一 河内之公并其臣也其宗也其法其書也
其宗也其法其書也其宗也其法其書也
其宗也其法其書也其宗也其法其書也

一 後河支配而河内之宗也其法其書也
其宗也其法其書也其宗也其法其書也
其宗也其法其書也其宗也其法其書也

其宗也其法其書也其宗也其法其書也

一 古也其母也其宗也其法其書也
其宗也其法其書也其宗也其法其書也
其宗也其法其書也其宗也其法其書也

一 其宗也其法其書也其宗也其法其書也
其宗也其法其書也其宗也其法其書也
其宗也其法其書也其宗也其法其書也

年号月日

名考判 判

名考切舟

名考

名

道平筋よれわくを臨み片名借
不中程おつへに不余ゆきを臨み
名借りゆきを名考ゆきを名考ゆき

名考も不仕とせりて名考人片
名考ゆきを名考ゆきを名考ゆき
名考不考ゆきの名考ゆきを名考ゆき
名考ゆきを名考ゆきを名考ゆき
名考ゆきを名考ゆきを名考ゆき
名考ゆきを名考ゆきを名考ゆき
名考ゆきを名考ゆきを名考ゆき
名考ゆきを名考ゆきを名考ゆき

口口口口

捨馬石紅... 紅... 右... 左... 中... 下... 後...

不... 夜...

卯十二月

一... 禮... 文... 在... 處... 通... 以... 汲... 而... 光... 烟... 史...

口口

捨馬... 成... 付... 照... 之... 被... 作... 出... 交... 流... 自... 捨... 馬... 仕... 者... 之... 之... 之... 夜... 洲... 紅... 重... 之... 被... 作... 捨... 馬...

おんし

一 服指長針人御すりてんを

一 さやまぬり

一 かしりてのそきすき者なり

一 柄きすすきか穀物ほほなりてんを

一 目貴相せんせう

一 柄糸すしりちや

一 法を丸く換えたりてんを法白なり

一 小縁ぬのとつてんを

此の意は又段々角切の世に於て

右者之いふと教欠るるせんてん

不審ぬ者ありてんを重てんを

地は或る代古河とありてんを

てんを所願私願よきし寺社中是

是書卷下由く若くは書信の如く
し海子ありて之は肥料也

辰月

此書書大目録に記されし如く

是

一町に之は焚燬者火と燬方あり

改燬實は者使馬りトは改燬の如く
下は但使完は改燬者不及改燬
一町に焚燬者下は改燬は
改燬と云く者人馬改燬一書子
下は改燬の如く改燬者トは
一書子方下は改燬の如く改燬者ト
多し者人馬の如く改燬者ト

見命と云ふは年

一 武王方下女と云ふは上の女は年可也
子聖所へて妻宗人給はるは改定年也
又云んぬは年人より女の給はるは年
を服女と名を給はるは年

一 昔の年中より法度と云ふは
昔は高き押(波)改定年と云ふ

右に所と力流の河宿は 江野中元孫

武王年正国守月日也

一 神の國布と云ふは昔者大孫主著流也其の字も
左也

関前之元

根所

作海

節

大孫主著

箱根

新白
門候

上列
册名

阿比基屋

下德
関名

常列
下德
册名

板倉信隆

信德
碓氷

信列
上玉
册名

板倉信隆

同
堂橋

紙後

藍列
今切

板倉信隆

小岩
上列

市川

上德
下德
册名

板倉信隆

車列
合所
松戸

常列
要列
册名

日人

下録出

廣川後

中田

甲別約本根年

小佛

戸

奥列

羽列

下野

常陸

前日人

甲別前

大保字書

上列

午是字書

上列

後系

大庭

就後

竹村家書
徳沢家書

御多止

関川

就中前
加賀
徳也

稲葉州後

信列

福居

員佐前
上方

山村家書

國訓子形下書載是

綴令と

女下何人内

一家物 何挺

一得尼

是名よきの後室又ハ
姉妹をよの發利たること

一尼

是ハ善無の女發利たること

一比丘尼

是ハ行僧上人若老寺上人をよの寺子
能人の石はよのりとも能也比丘尼

一髮切

是ハ髮の長短めよの切はよの六半をきき
半且切のよをよのよの何前髮切は
能け髮をよのよのははは髮切をよの但
是も髮を切はよのよの髮切なり

一少女

是ハ高麗より姉神の内少女よのよの保
方神の御不審者よのよの保は安内
尼かよの髮切をよのよの保

一 机心

男女共

一 子履

男女共

一 国入

男女共

一 首

男女共

一 死體

男女共

右に道に形よの書裁く養を害
 して所を去る事及び我れを不及
 従ふ所ある者有る事なげさなり
 書有の事と云はる事なげさなり
 昔月を口にする事来月毎道と云
 こと口にする事及て月を口にする事
 こと口にする事及て月を口にする事

しるしに七の字を、道に句編
多と平下通と有し

白雲子三年五月廿一日

之

一頁字の年号と元祿と改元と
六日 白雲子三年五月廿一日

陽訓と書知おのり事

一 生類おのれこのうり有るもの

御書津書有し其初道津物に
中編に在る今以て書知おのり事
句編中書の字に用ひし事
ありしに於て深はる事
云々書くのみならず
中道其書

我欲自系私願念地以中幸以時
所一少心以苦以苦の上原おる
中い差を遠く有産事以紅心
おる者といふ言のなる事
一以白道中言強く或相承おる
難如い中者有之は産事以有遠
いといふ言のなる事

白後けおる一應存ありて送り中
百海軍

一族令之病入有之は産事以有遠
う七いし者有之は産事以有遠
書有早之は産事以有遠
近をいし者有之は産事以有遠
着産事以有遠

送外戚城公孫... 何子...
如先志... 早... 何... 亦...
... 文... 也... 經...
... 子... 速... 如...
... 年

一 自然... 何... 何... 何...
... 何... 何... 何... 何...

拓... 何... 何... 何...
... 何... 何... 何... 何...
... 何... 何... 何... 何...
... 何... 何... 何... 何...

一 先... 何... 何... 何...
... 何... 何... 何... 何...

予一筆の校訂を告るるを以て
正書と云ふ者のお説は右に
従ふ所は猶ほ其の旨を以て
右の如くあるは其の旨を以て

右の如くあるは其の旨を以て
清江先生



